

HAPPY MEDIA

蒲郡・幸田 地域みっちゃく生活情報誌®

ぶらりん

蒲
郡

幸
田

Gamagori Kota Magazine BURARIN

2

2020. February

71号

総発行部数

40,200部

無料各戸配布 38,800部
無料設置 1,400部

本 胡麻油



食卓から宇宙まで、

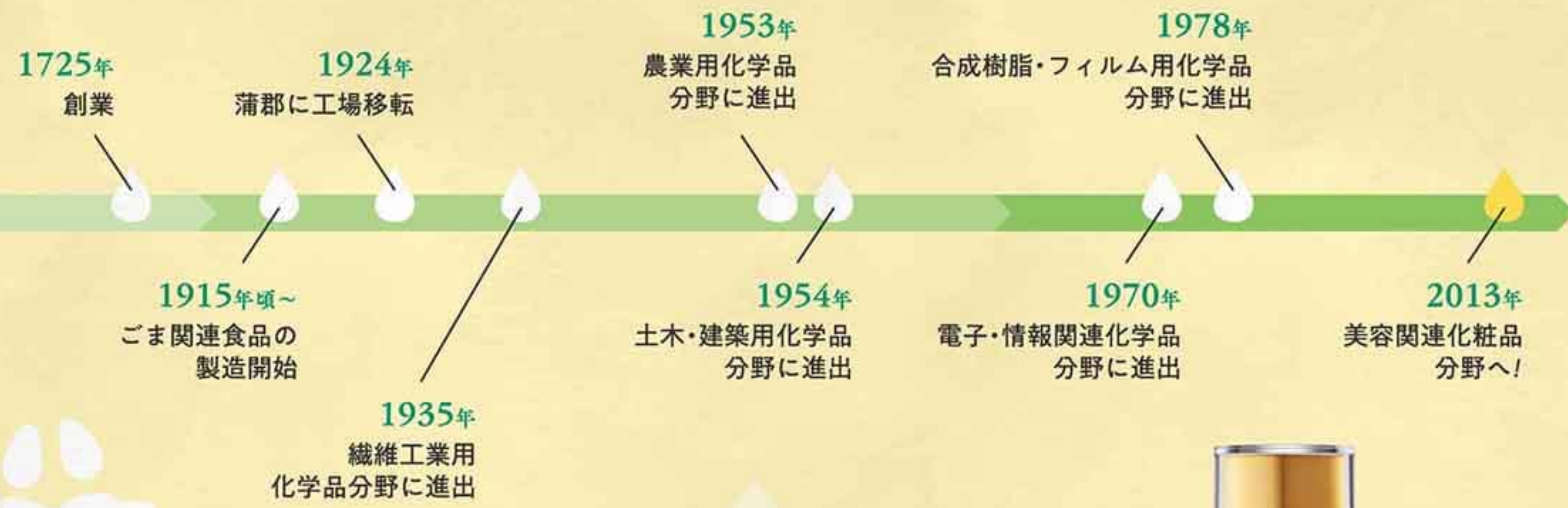
一滴で世界を変える会社の

新しい挑戦!!

看板メニュー特集 / スクール特集vol.1

求人
ページも
見てね!

挑戦と進化を続ける、竹本油脂、300年の歴史



私たちが、皆さまに“ピュアセサミ”をお届けしています!



美容関連商品の開発・製造・販売を担当する第五事業部のメンバー6名。(左から工藤さん、小澤さん、近藤さん、河村さん、服部さん、村瀬さん) 営業から製造までトータルに研究者が関わる「ワンストップ開発体制」を導入している竹本油脂。メンバー全員がチームのあらゆることを把握するチームワークの良さで、より良い商品を皆さまに届けてくれています。



“ピュアセサミ”シリーズのラインナップは現在、美容導入オイル、化粧水、乳液の3種類。ごまが持つ力を利用した、他には無いスキンケア商品です。



パッケージリニューアルの検討風景。「お客様から届くアンケートの内容はメンバー全員が全て目を通しています」と、第五事業部長の河村さん(右写真左)。その声をもとに、日々パッケージや容器を含めた商品の改良や、研究開発を行っています。

ごまの可能性を広げる
新たな挑戦!!

食卓、そして航空宇宙産業でも使われる、様々な「滴」を開発している竹本油脂が、新たな挑戦として選んだのは、なんと美容関連化粧品分野。ごまの成分を利用したスキンケア商品の開発・製造・販売を2013年より開始しました。

食用油や産業用化学品とは全く異なる分野で、新規の事業を立ち上げた経緯を担当部署の第五事業部に伺うと、「ごまはもともと美容にも関連が深い食品。お客様から胡麻油を美容に使いたいという声はいくつも頂いていました」と、開発グループリーダーの服部さん。いくつかの新規事業の提案の1つとして企画を進めた結果、これまで培ってきたごまに関する知識と、搾油のノウハウを活用した美容関連化粧品の製造・販売という新しい挑戦が始まることになったそうです。

現在は通信販売等で、全国へ展開している「ピュアセサミ」。開発グループの小澤さんは、「地元の方たちにも私たちの商品をもっと知っていただきたいと思っています」と、グローバルな企業となった今も、地元を大切にしたいと言います。

挑戦し進化し続ける、竹本油脂の新しい「滴」。その一端を感じられるスキンケア商品を、皆さまもぜひ一度お試しください。



食卓から宇宙まで、

一滴で世界を変える会社の

新しい挑戦!!

ご家庭の食卓でお馴染みのブランド

“マルホン胡麻油”の製造メーカー、竹本油脂。

今回は竹本油脂が持つ別の顔、化学品メーカーとしての

新しい挑戦について話を伺ってきました。



現在も主力商品の1つである太白胡麻油。なんと、大正13年にはその販売を示す記録が残っているそう。



1924年に蒲郡市に工場を移転。以来、蒲郡駅前発展とともに、約100年近く同じ場所で操業を続けています。

創業から約300年。
蒲郡を代表する老舗企業。

蒲郡駅ロータリーのすぐ隣に本社と工場があり、初めて市に訪れた方もまず最初にその存在に気がつく、市のシンボルのような存在の竹本油脂。その創業は1725年、江戸時代から実に300年近くも続く、日本最古級の製油会社です。

三河国御油(現在の豊川市)で灯明油と油粕肥料の販売をしていた小さな油屋は、1924年に工場を蒲郡市に移転し、1945年には竹本油脂株式会社として、この蒲郡で会社を設立します。時代が進み、現在はごま油メーカーとして、マルホン胡麻油ブランドが日本中に広く知られる、県内でも有数の優良企業になりました。

またごま油のイメージが強い竹本油脂ですが、実は化学会社として、油脂から派生した特殊化学品での事業も展開していることとはご存知でしょうか? 特に界面活性剤の製造では、分野の草分け的存在でもあり、繊維用油剤、コンクリート用化学混和剤、農業用化学品、電子・情報関連化学品など、様々な分野で国内外の大きなシェアを誇っています。

社員の約1/3が研究開発に従事する「研究開発型企業」として、常に時代に適応し、新しい挑戦をしている会社。それが「マルホン胡麻油」というブランドに隠れた、竹本油脂の本当の姿なのです。